13　ナポリスケッチ　有島生馬

昭和十二年（一九三七）　油彩・ボード
二三・八×三二・九

イタリアの名所ナポリの、おそらくサンタルチア港よりヴェスヴィオ山をのぞんだ、明るい色彩に満ちたオイル・スケッチである。本図が描かれた昭和十二年は、前年に有島生馬自身が創立会員として加わり結成された一水会が開催した第一回展覧会の年であり、生馬は上野の東京府美術館で開催された同展で滞欧作品と銘打って二十二点もの作品を発表した。目録に掲載された出品名を見ても、「ナポリの宿」「ナポリ、パルノベ河岸」「ヴエスヴヰヨ遠望」など、ナポリを題材とした作品が多く、本図もこの一連の制作に連なるものであろうと推測される。一水会は、同十年の松田文相による帝国美術院改組にともない、帝国美術院会員に挙げられた有島が、安井曾太郎や石井柏亭らとともに結成した洋画団体である。緊迫した時局に対面しつつあった画壇とは距離を置き、高踏的で穏健な作風で知られた一水会を象徴する一面が、異国情緒を誘う本図からもうかがえよう。額の裏板には「ナポリスケッチ　一九三七年　有島生馬」と本人によって書かれている。また、「63　ナポリ港ヴェスヴヰヨ山」の紙札が貼られており、第一回一水会展ではないが展覧会出品作であったと推定される。

有島生馬（一八八二～一九七四）は横浜に生まれた。東京外国語学校伊太利語科を卒業後、藤島武二に入門し洋画を学んだのち、ローマとパリで絵画指導を受けた。帰国後、雑誌『白樺』創刊に同人として加わり、日本で初めてセザンヌの本格的な紹介を行った。二科会の結成にも参加し、一水会創立に際して脱退するまで同展に出品した。画家としての活動の一方、文業でも活躍しており、日本ペンクラブ創設に際して副会長に就任した。帝国芸術院会員、文化功労者に選ばれたほか、日展常任理事をつとめた。兄と弟に小説家として知られる有島武郎、里見弴がいる。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

近代の洋画家、創作の眼差し
三の丸尚蔵館展覧会図録No.52

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社　東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成二十二年十月三十日発行

©2010, The Museum of the Imperial Collections